

地域高齢者を対象とした Social Provisions Scale (SPS) 短縮化の試み — 項目反応理論分析による検討 —

大片久* 澤田陽一** 矢嶋裕樹*** 矢庭さゆり*** 坂野純子**

要旨 地域で自立した生活をする高齢者の社会関係を把握するためには、ソーシャル・サポートを様々な機能的・質的側面から、「社会関係の豊かさ」を評価できる多次元的な尺度が必要とされる。そこで本研究では、地域高齢者477名の回答データに基づいて当該条件を満たす Social Provisions Scale (SPS) の短縮化を試みた。項目反応理論 (Item Response Theory: IRT) の2パラメタ・ロジスティックモデルを利用して、識別力と困難度の推定を行い、6項目および12項目の短縮化尺度を作成した。両短縮化尺度のスコアとSPSオリジナル24項目尺度のスコアとの間にはいずれもかなり強い正の関連が認められた (6項目: $r=0.90$ 、12項目: $r=0.96$)。また、SPS短縮化尺度を含む3種のスコアと日本語版 Lubben Social Network Scale 短縮版のスコアとの間にも有意な正の関連が認められ (オリジナル24項目: $r=0.49$ 、6項目: $r=0.45$ 、12項目: $r=0.49$) 両短縮化尺度の基準関連妥当性が支持された。2種の短縮化尺度のテスト情報量を比較した結果、12項目の方 (9.14) が6項目 (6.13) よりも、実用に適していると考えられた。

キーワード: 地域高齢者、Social Provisions Scale (SPS)、項目反応理論 (IRT)

I. 問題と目的

健康長寿社会を目指す我が国では、高齢者の心身の健康状態の維持・増進を図るために、地域特性に見合った高齢者施策を充実させるとともに、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援を企図して、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるように、より包括的な支援・サービス提供体制の構築を目指す「地域包括ケアシステム」の実現が急務とされている¹⁾。特に、自分のことを自身で行う「自助」および地域でのボランティアや地域貢献など、社会参加活動を中心とした「互助」の取り組みのように、社会との様々なかたちでの積極的な繋がりが、すなわち、自立的な「社会関係」を良好に保ち続けることが健康の維持・増進において重要であるとの認識が広がり^{2) 3) 4) 5)}、それに見合った社会関係を適切に把握できる評価ツールが必要とされている。

これまでの社会関係を評価する構成概念は主に、関係性のある他者の数や接触回数および頻度、相互

作用の質的な側面である親しさの程度、関係に対する満足感、葛藤の有無や程度、さらには関係の中で交換されている資源の量や内容とそれに対する満足感など、社会関係の質や量、構造や機能のそれぞれの側面などを表す「ソーシャル・ネットワーク」や「ソーシャル・サポート」などの構成概念が注目されてきた。中でもソーシャル・サポートは家族や友人など、その人が取り巻く重要な他者から得られる多様な援助の総称として、研究者間で様々な定義がなされ、健康状態との関連が検討されてきた^{2) 4)}。社会関係の量的・構造的な側面に主眼を置くソーシャル・ネットワークとは異なり、サポートの受け手の側面 (受領) を中心としながらも、他者との相互作用を想定した質的・機能的な側面を評価するソーシャル・サポートは、「自身が関係するネットワーク内で他者から得られる様々な種類のサポートに関する利用可能性の信念」として定義され、被援助者における「知覚されたサポート (perceived support)」の程度が高いほど社会関係が良好である

* 岡山県立大学大学院博士課程保健福祉学研究科保健福祉科学専攻

** 岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科

*** 新見公立大学健康科学部看護学科

〒719-1179 岡山県総社市窪木111

〒719-1179 岡山県総社市窪木111

〒718-8585 岡山県新見市西方1263-2

と見なされる⁶⁾。

しかし、従来のソーシャル・サポート尺度は、知覚される対象が家族や友人などと構造的な関係でカテゴリー化されていることもあり、これにより、援助される条件に該当しない対象がいる場合に、適切な評価に繋がらないという課題を有している。また、当該尺度は情緒的サポート、手段的サポート、情動的サポート、評価的サポートなど、サポートの分類がなされており、これにより被援助者の受領的なサポートが多面的に捉えることが可能であるのだが、送り手である援助者が特定のサポートを提供したとしても、被援助者である受け手が必ずしもそれをサポートであると知覚するとは限らず、受け手と送り手との相互関係や互惠性も考慮しなければならないという点も指摘されている^{3) 7)}。さらに、これまでの高齢者を対象としたソーシャル・サポート研究では、サポートの受領だけに焦点を当ててきたが、近年ではサポートを受けるだけでなく自身もサポートを提供することで、孤独感を低減し精神的健康やQOLなどを高められることが示されており^{8) 9)}、従来の枠組みに収まらない概念となりつつある。これらのことから、住み慣れた地域で積極的に自立した生活をする高齢者の社会関係を把握するためには、ソーシャル・サポートを様々な機能的・質的側面から、すなわち「社会関係の豊かさ」から評価でき、かつ対象となる構造的な関係カテゴリーに依存せず、被援助者もサポート提供による心身の健康への効果をも想定できる多次元的な尺度が必要とされる。

そこで、国内外のソーシャル・サポート尺度の内、これらの条件に当てはまる尺度を探索したところ、Weissの理論に基づくSocial Provisions Scale (SPS)^{6) 10) 11) 12) 13)}が該当する尺度であると考えられた。Weissは人の孤独に焦点を当てた研究により、他者との関係から提供される資源に関する理論を構築し、ソーシャル・サポートにおける6つの重要な因子、すなわち、(1) 相談の機会 opportunity for guidance、(2) 信頼できる他者 reliable alliance、(3) 愛着 attachment、(4) 社会的統合 social integration、(5) 価値の再確認 reassurance of worth、(6) 養育の機会 opportunity for nurturanceを見出した¹¹⁾。これらの因子に基づきSPSを開発したCutrona & Russell¹²⁾によれば、(1) 相談の機会および(2) 信頼できる他者の因子

は、従来のソーシャル・サポート尺度において、主に教師や信頼のおける相談相手、家族・親族などから提供される実用的なサポートに該当し、直接的に健康やストレスの軽減に寄与するものと想定されている。一方で、(3)～(6)は直接的には健康に寄与はしないが、ストレス状態の高低に関わらず、被援助者の認知過程に介在する様々な有益な効果がある因子として位置づけられている。(3) 愛着は、愛情や友情などによって生じる情緒的な結びつきの感覚を、(4) 社会的統合は、共通の興味・関心を共有できる集団への帰属感を表しており、配偶者といった特定の人物のみならず、親交や家族の関係性自体からも生じるとされる。また、(5) 価値の再確認および(6) 養育の機会は、被援助者のストレス認知や対処行動と関連がある自己効力感や自己肯定感と関連し、それらが促進される時に介在する因子であるとされる。特に後者は、Weissも社会関係の重要な因子であることを主張しており、「自分が他者に必要とされる」¹²⁾、あるいは、「他者を助けることが自分を助ける」⁶⁾という従前の尺度にはほとんど盛り込まれていない「サポート提供」を表す因子と考えることができる。

以上のことから、SPSは前述の条件を十分に満たした尺度であると考えられる。加えて、これまでに高齢者を対象とする研究において、当該尺度は心身の健康状態や生存率などのアウトカムと関連することが確認されており^{12) 14) 15)}、妥当性の検証も行われているため、高齢者を対象とした社会関係を把握するための有用な尺度として活用が期待される。しかしながら、当該尺度は24項目と質問項目の数が多く、質問自体の理解や回答に時間を要する高齢者によっては、回答への負担が大きくなったり、それにより欠測値が多く生じたりするなど、大規模調査には適さない。従って、地域高齢者が回答しやすく、可能な限り、尺度の妥当性を損なわず、ソーシャル・サポートを適切に評価できる短縮化が必要になる。従来、短縮化した尺度を作成する際には、構成概念妥当性などの質的な側面、 α 信頼性係数や項目-尺度間相関、因子分析の結果などの各指標を参考に、項目数の削減が行われてきたが、このような従前の方法も有効ではあるのだが、因子構造の違いや測定次元の違いなど、既存尺度の短縮化における様々な問題点も生じる¹⁶⁾。

そこで、本研究では、調査対象の人間関係資源

の認識を中心とした様々なソーシャル・サポートを評価可能なSPSの短縮化を目的に、項目反応理論 (Item Response Theory : IRT) に基づいて、当該尺度の分析を試みる。IRTを用いた尺度の短縮化を検討した先行研究としては、例えば、並川ら¹⁷⁾ がパーソナリティ特性 Big Five の短縮化を、また、浦上ら¹⁸⁾ が自己効力感尺度の短縮化を試みている。このIRTを用いる利点は、上述の測定次元に関して、当該構成概念のオリジナル尺度で推定された項目パラメタ (識別力・困難度) を用い、データがモデルにどれくらい適合しているかを確認し、測定次元を変化させることなく評価項目の適切さを吟味した上で、短縮化を行うことができることである。また、IRTに基づいた分析をする際、収集するデータによっては、年代や性別などの対象の属性、あるいは地域性や文化などの社会環境に適した項目を選び出すために有益であるなどの利点もある。本研究では今後、超高齢社会に至った我が国の地域高齢者の保健福祉政策に役立つ社会調査にSPSを活用できるように、既に地域高齢者を対象に取得されたSPSの24項目への回答データを利用して、当該尺度の短縮化を試みることにする。

II. 方法

(1) 分析データ

本研究の分析対象となるSPSのデータは、2015年8月～10月にA県B市に在住し、介護保険による要支援、要介護1および2と認定された者600名を対象に行った自記式質問紙調査および訪問面接調査において得られたデータ¹⁹⁾を用いた。当該調査は、A県B市の介護支援専門員協会支部の協力により、担当介護支援専門員を通じて、対象者に本調査の趣旨および倫理的配慮について文書で説明した上で調査協力が依頼された。協力の同意が得られた対象者に対しては、調査票と返信用封筒を配布し、記入済み調査票は対象者自らが同封した返信用封筒に厳封の上、所属機関宛に郵送してもらうことで回収し、また自力での回答が困難な対象者に対しては、担当介護支援専門員が訪問し、得られた回答を調査票に記入することで回収した。

回答が得られた491名(81.8%)の内、65歳以上の者で欠損を有さない有効な回答が得られた477名のデータ(79.5%)を分析に用いた。

(2) Social Provisions Scale

SPSは前述の通り、6つの下位因子から成り、回答者自身の社会関係を多次元的に評価することができる。下位因子は各4項目で評価され、合計24項目の質問からなる。下位因子の質問はそれぞれ2種類の質問を肯定的に尋ねる項目と否定的に尋ねる逆転項目とからなり、4件法(全くそう思わない、そう思わない、そう思う、全くそう思う)で回答を求められ、各質問1点から4点に点数化される。合計得点は24点から96点の範囲を取り、得点が高いほど社会関係が豊かであることを表す。なお、SPSの日本語訳は著者らが行った。

(3) 短縮化の手続き

分析は、浦上らの分析方法¹⁸⁾に則って、以下の通り実施した。

まず得られたSPS24項目への回答に対して因子分析(最尤法)を行い、当該尺度の因子構造および一次元性の確認を行った。

次に、2パラメタ・ロジスティックモデルを利用して、識別力および困難度の2つの項目パラメタの推定を行った。なお、項目パラメタを推定するにあたって、肯定的な回答「そう思う」「全くそう思う」に1、否定的な回答「全くそう思わない」「そう思わない」に0を与え、データを2値化した。識別力は質問項目の識別する力を表す傾斜パラメタであり、測定しようとする回答者の特性、ここでは「社会関係の豊かさ」をどの程度識別できるかを表す指標である。一方、困難度は項目の難易度を表す位置パラメタであり、社会関係が豊かでなければ高い値の回答ができない項目と、社会関係が乏しくても高い値の回答ができる項目の違いを示す指標である。

項目の選択は、次の手順で行った。①SPSの6つの各下位因子より同数の項目を抽出した。6つの因子よりそれぞれ1つの項目を選択した6項目と、それぞれ2つの項目を選択した12項目を短縮化の候補とした。なお、12項目の選択の際には、オリジナル版の特徴を考慮し、逆転項目と非逆転項目が1項目ずつ含まれるようにした。②尺度の識別力を高めるため、識別力が高い項目を選択した。③多様な困難度の項目を選択した。④選択された項目は回答者が容易に理解をしやすいかどうかを総合的に検討した。

選択された短縮化尺度の信頼性を検討するために、テスト情報量を求めた。浦上らの手続き¹⁸⁾を参考により少ない項目数で、かつテスト情報量が9

表 1. SPS の因子分析および一次元性の確認

| 項目 | 質問 | 因子負荷量 |
|-----|------------------------------------|-------|
| 19R | 私には、困っていることを安心して話せる人がいない。 | 0.605 |
| 24R | 誰も私の助けを必要としていない。 | 0.506 |
| 16 | 私には、困ったときに安心して頼れる人がいる。 | 0.506 |
| 18R | 私には、本当に必要なときに頼りにできる人がいない。 | 0.495 |
| 12 | 私には、生活上の決断について相談する相手がいる。 | 0.492 |
| 11 | 私には、良い気分にしてくれる親しい付き合いをしている人がいる。 | 0.471 |
| 22R | 誰も私のすることをしたいと思わない。 | 0.463 |
| 17 | 私には、強い絆で結ばれている人が最低ひとりいる。 | 0.450 |
| 1 | 本当に必要なときに私を助けてくれる人がいる。 | 0.446 |
| 8 | 自分と同じような考え方をする人たちが私の周りにいる。 | 0.444 |
| 13 | 私の技術と能力を評価してくれる人がいる。 | 0.441 |
| 3R | 私にはストレスを抱えたときに、頼れる人がいない。 | 0.437 |
| 14R | 私と興味や関心が同じ人は誰もいない。 | 0.437 |
| 9R | 他の人は私のすることを認めてくれないと思う。 | 0.435 |
| 21R | 私は誰に対しても親近感をもたない。 | 0.427 |
| 4 | 私に助けを求めてくる人がいる。 | 0.414 |
| 10R | 何かまずいことがあっても、誰も私を助けないだろう。 | 0.402 |
| 2R | 私には親しくしている人がいない。 | 0.389 |
| 15R | 私の世話を必要とする人は誰もいない。 | 0.383 |
| 20 | 私の才能と能力をほめてくれる人がいる。 | 0.376 |
| 23 | 緊急時に私には頼りにできる人がいる。 | 0.342 |
| 7 | 私には誰かの世話をする責任がある。 | 0.293 |
| 5 | 私がしている社会活動(ボランティア、老人クラブ等)を好きな人がいる。 | 0.233 |
| 6R | 他の人は、私が物事をうまくこなせないと思っている。 | 0.191 |

注) Rは反転項目を表す

を超える範囲が広いものをより妥当な短縮版と判断した。

なお、本分析には STATA IC 15 を使用した。

(4) 短縮化尺度の妥当性の検討

作成された SPS の短縮化尺度 (6 項目および 12 項目) の基準関連および構成概念妥当性を検証した。SPS オリジナル 24 項目版との関連、および当該尺度と関連が仮定される構成概念との相関関係を検討した。

SPS と外的基準との関連性を検討するために、日本語版 Lubben Social Network Scale 短縮版 (LSNS-6) を用いた。LSNS-6 は社会的結びつきの量的・構造的側面、規模・頻度・密度などの客観的特性を表すソーシャル・ネットワークを評価する尺度であり、ソーシャル・サポートとは異なる側面から社会関係の豊かさを評価できるため、関連性があるものと仮定される。

Ⅲ. 結果

SPS 尺度の因子構造および一次元性の有無を確認するため因子数を 1 とした因子分析 (最尤法) を行った (表 1)。因子負荷量は 0.191 ~ 0.605 であり、項目の一部に因子負荷量がやや低いものがあったが、おおむね一次元性が確認できた。

項目反応モデルに基づき、項目パラメタの推定を行った (表 2)。この結果を、識別力を y 軸、困難度を x 軸として散布図に示したものが図 1 である。全体的傾向として、識別力の相対的に高い項目は -1.5 から -2.0 付近の困難度に収まり、識別力の低い項目の困難度は、幅広く分布していた。

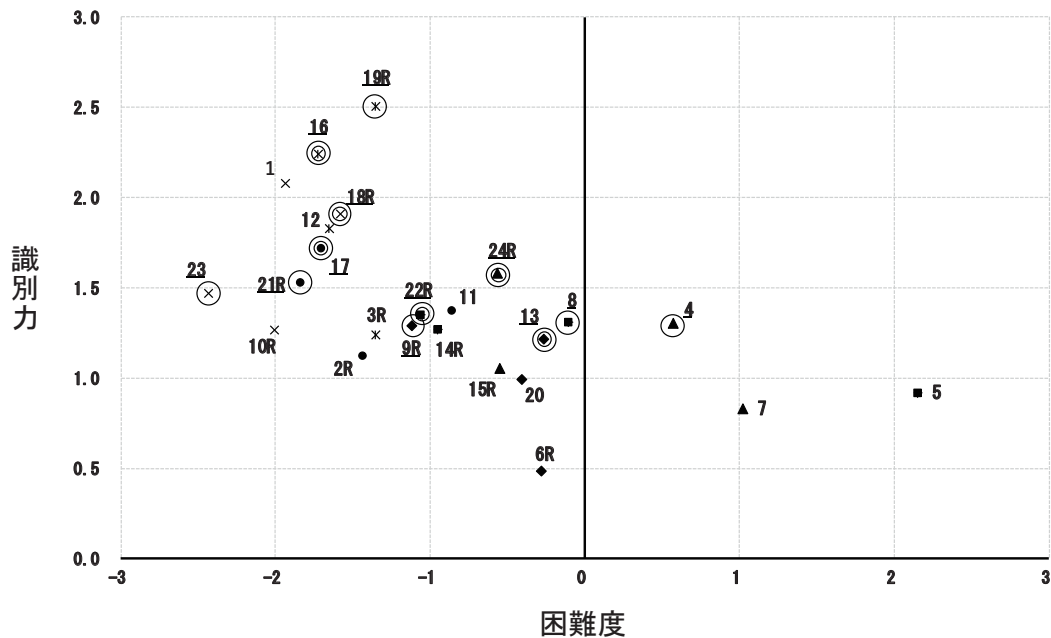
この結果をもとに、短縮化した尺度を構成する項目を選択した。選択する項目が 6 項目短縮化尺度の場合は項目 13、16、17、18、22、24 であり、12 項目短縮化尺度の場合は項目 4、8、9、13、16、17、

表 2. SPS の項目パラメタの推定値

| 下位因子 | 項目 | 質問内容 | 識別力 | 困難度 |
|-------------------------------------|-------|------------------------------------|-------|--------|
| 相談の機会 opportunity for guidance | 3R | 私にはストレスを抱えたときに、頼れる人がいない。 | 1.299 | 0.570 |
| | 12 | 私には、生活上の決断について相談する相手がいる。 | 0.826 | 1.021 |
| | ◎ 16 | 私には、困ったときに安心して頼れる人がいる。 | 1.049 | -0.550 |
| | ○ 19R | 私には、困っていることを安心して話せる人がいない。 | 1.577 | -0.564 |
| 信頼できる他者 reliable alliance | 1 | 本当に必要なときに私を助けてくれる人がいる。 | 1.238 | -1.357 |
| | 10R | 何かまずいことがあっても、誰も私を助けないだろう。 | 1.833 | -1.655 |
| | ◎ 18R | 私には、本当に必要なときに頼りにできる人がいない。 | 2.245 | -1.724 |
| | ○ 23 | 緊急時に私には頼りにできる人がいる。 | 2.507 | -1.358 |
| 愛着 attachment | 2R | 私には親しくしている人がいない。 | 1.123 | -1.444 |
| | 11 | 私には、良い気分にしてくれる親しい付き合いをしている人がいる。 | 1.378 | -0.869 |
| | ◎ 17 | 私には、強い絆で結ばれている人が最低ひとりいる。 | 1.723 | -1.707 |
| | ○ 21R | 私は誰に対しても親近感をもたない。 | 1.530 | -1.841 |
| 社会的統合 social integration | 5 | 私がしている社会活動(ボランティア、老人クラブ等)を好きな人がいる。 | 0.917 | 2.148 |
| | ○ 8 | 自分と同じような考え方をする人たちが私の周りにいる。 | 1.307 | -0.111 |
| | 14R | 私と興味や関心が同じ人は誰もいない。 | 1.266 | -0.955 |
| | ◎ 22R | 誰も私のすることをしたいと思わない。 | 1.352 | -1.059 |
| 価値の再確認 reassurance of worth | 6R | 他の人は、私が物事をうまくこなせないと思っている。 | 2.079 | -1.938 |
| | ○ 9R | 他の人は私のことを認めてくれないと思う。 | 1.269 | -2.008 |
| | ◎ 13 | 私の技術と能力を評価してくれる人がいる。 | 1.910 | -1.585 |
| | 20 | 私の才能と能力をほめてくれる人がいる。 | 1.472 | -2.436 |
| 養育の機会 opportunity for nurturance | ○ 4 | 私に助けを求めてくる人がいる。 | 0.482 | -0.283 |
| | 7 | 私には誰かの世話をする責任がある。 | 1.291 | -1.118 |
| | 15R | 私の世話を必要とする人は誰もいない。 | 1.212 | -0.263 |
| | ◎ 24R | 誰も私の助けを必要としていない。 | 0.994 | -0.409 |

注1) Rは反転項目を表す

注2) SPS短縮化6項目は◎、短縮化12項目は◎および○の項目である



* : 相談の機会、x : 信頼できる他者、● : 愛着、■ : 社会的統合、◆ : 価値の再確認、▲ : 養育の機会
注) 番号は項目番号を示し、○がついている項目は12項目、◎がついている項目は6項目の候補を示す

図 1. SPS 各項目の識別力と困難度の散布図

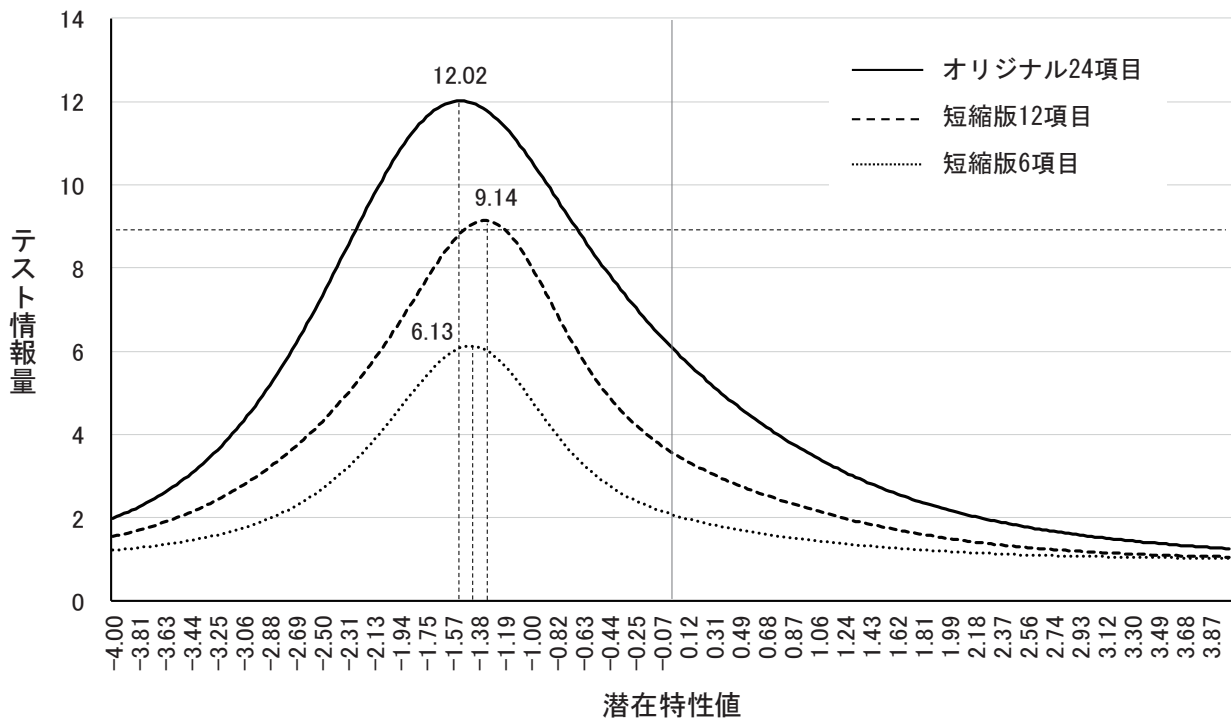


図 2. SPS オリジナル 24 項目尺度および 6 項目・12 項目短縮化尺度のテスト情報量

18、19、21、22、23、24 を選択した。

短縮化尺度の信頼性を検討するために、6 項目および 12 項目の各縮化尺度のテスト情報量を、オリジナル 24 項目も合わせて求めた (図 2)。いずれも上に凸の単峰型のグラフで、24 項目は 12.02 であり、同様に 12 項目短縮化尺度の場合、最大情報量は 9 よりもやや大きい値 (9.14) であったが、6 項目短縮化尺度は 9 を下回る値 (6.13) であった。

最後に、短縮化した SPS の種々の妥当性を検証するために、SPS6 項目および SPS12 項目の各短縮化尺度とオリジナル 24 項目尺度スコアとの相関係数 (r) および LSNS-6 スコアとの相関係数 (r) を、下記の通り、算出した。SPS オリジナル 24 項目尺度スコアと 6 項目および 12 項目短縮化尺度スコアとの相関係数はそれぞれ 0.90、0.96 であり、すべて有意な正の関係が認められた ($p < 0.01$)。また、6 項目と 12 項目短縮化尺度の相関係数も 0.95 で非常に高く、有意な正の関係が認められた ($p < 0.01$)。他方で、SPS オリジナル 24 項目尺度スコアおよび 6 項目スコアと 12 項目スコアの 2 種の短縮化尺度と、外的基準である LSNS-6 との相関はそれぞれ 0.49、0.45、0.49 であり、有意な正の関係が認められた ($p < 0.01$)。

IV. 考察

本研究では、地域で積極的で自立した生活をする高齢者の社会関係を、従来の「受領」のみならず「提供」も想定した互恵的な部分も適切に評価可能と考えられる SPS の短縮化を、IRT に基づいて行った。その結果、6 項目短縮化尺度の最大情報量は 9 より小さい値である一方で、12 項目短縮化尺度は 9 より大きい値であった。加えて、短縮化尺度スコアとオリジナル尺度スコアとの相関係数は 0.90 以上と十分に高く、かつ、関連すると仮定されたソーシャル・ネットワーク尺度との関連もあることから、高齢者に知覚された社会関係の豊かさを、オリジナル尺度の項目数を 1/2 以下まで削減しても、妥当性が担保された短縮化尺度を作成することができたと考えられる。なお 6 項目よりも 12 項目短縮化尺度の方がテスト情報量は高く、先行研究¹⁸⁾の基準もクリアしていたことから、実際の使用には耐えうると考えられる。ただし、6 項目短縮化尺度も決して使用できないわけではなく、調査の規模や質問項目の数などの制約によっては、使用可能である。

今回作成された 6 項目および 12 項目の短縮化尺度にはいくつかの課題がある。1つは、これはオリジナル尺度が有していた傾向でもあるのだが、図 1

および図2より、質問項目の困難度がマイナス側の項目に偏っており、またテスト情報量の最大値の潜在特性値は低く、プラス側は裾野が広がっている。すなわち、社会関係が乏しいと知覚している対象に対する測定精度は高いという特徴が示唆される。次に、本研究ではオリジナル尺度の6因子構造を踏襲することを優先して、各因子の質問項目数が等しくなるよう短縮化尺度の項目を選択したが、「社会関係の豊かさ」という1つの因子としての識別力を優先するならば、因子構造に関わらず、回答の特性に準拠して選択する項目を判断する方が、当該概念を適切に測定できる可能性もあり、短縮化尺度の作成をめぐる方法論の検討も今後の課題である。最後に、今回の短縮化尺度の作成には、矢庭ら¹⁹⁾の調査データを利用しており、この調査と同質の特性を有する高齢者集団においては、当該尺度を使用可能であるが、文化的背景やその他の調査に影響を与える要因が異なる調査対象の場合、妥当性および信頼性において十分な検討が必要になるかもしれない。短縮化尺度の使用には、これら課題を理解した上での使用が求められる。

文献

- 1) 東京都健康長寿医療センター研究所 (2018) 介護予防につながる社会参加活動等の事例の分析と一般介護予防事業へつなげるための実践的手法に関する調査研究事業. 平成29年度老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増人事業) 報告書, 1-177.
- 2) Cohen, S. and Wills, T.A. (1985) Stress, social support, and the buffering hypothesis. *Psychol. Bull.*, 98(2): 310-357.
- 3) 稲葉昭英, 浦光博, 南隆男 (1987) 「ソーシャル・サポート」研究の現状と課題. *哲学*, 85: 109-149.
- 4) 菅原育子 (2016) 高齢者の社会とのつながりと健康および well-being への経路. *老年社会科学*, 38 (3): 351-356.
- 5) 浦光博, 南隆男, 稲葉昭英 (1989) ソーシャル・サポート研究－研究の新しい流れと将来の展望－. *社会心理学研究*, 4 (2): 78-90.
- 6) Gottlieb, B.H. and Bergen, A.E. (2010) Social support concepts and measures. *J. Psychosom Res.*, 69(5): 511-520.
- 7) Shumaker, S.A. and Brownell, A. (1984) Toward a theory of social support: closing conceptual gaps. *J. Soc. Issues*, 40(4): 11-36.
- 8) 豊島彩, 佐藤眞一 (2013) 孤独感を媒介としたソーシャルサポートの授受と中高年者の精神的健康の関係. *老年社会科学*, 35 (1) 29-38.
- 9) 豊島彩, 佐藤眞一 (2014) 高齢者のソーシャルサポートの提供に対する評価の質的検討. *生老病死の行動科学*, 17-18: 65-78.
- 10) Weiss, R.S. (1973) *Loneliness: The experience of emotional and social isolation*. Cambridge, MA: MIT Press.
- 11) Weiss, R.S. (1974) The provisions of social relationships. In Z. Rubin (Ed.), *Doing unto others* (pp. 17-26). Englewood Cliffs, NJ: Prentice-Hall.
- 12) Cutrona, C.E., Russell, D.W. (1987) The provisions of social relationships and adaptation to stress. In: Jones, W.H., Perlman, D. (Eds.), *Advances in Personal Relationships. A Research Annual I*. Jai Press Inc., Greenwich, CT, pp. 37-67.
- 13) Cutrona, C.E., Russell, D.W., and Rose, J. (1986) Social support and adaptation to stress by the elderly. *J. Psychol. Aging*, 1 (1): 47-54.
- 14) Felton, B.J., and Berry, C.A. (1992) Do the sources of the urban elderly's social support determine its psychological consequences? *Psychol. Aging*, 7(1): 89-97.
- 15) Lyyra T.M., and Heikkinen, R.L. (2006) Perceived social support and mortality in older people. *J. Gerontol. B. Psychol. Sci. Soc. Sci.*, 61(3): S147-S152.
- 16) 並川努 (2015) 心理尺度短縮版作成におけるIRTの活用に関する研究. 名古屋大学博士課程(心理学) 学位論文, 1-108.
- 17) 並川努, 谷伊織, 脇田貴文, 熊谷龍一, 中根愛, 野口裕之 (2012) Big Five 尺度短縮版の開発と信頼性と妥当性の検討. *心理学研究*, 83 (2): 91-99.
- 18) 浦上昌則, 脇田貴文 (2016) 項目反応理論を用いた進路選択に対する自己効力尺度短縮化の試み. *南山大学紀要『アカデミア』人文・自然科学編*, 12: 67-76.
- 19) 矢庭さゆり, 矢嶋裕樹 (2015) 在宅要援護高齢

者の社会的孤立の実態と関連要因. 新見公立大学
紀要, 36 : 1-6.

Development of a short version of Social Provisions Scale for community-dwelling elderly individuals : an item response theory approach

HISASHI OKATA*, YOICHI SAWADA**, YUKI YAJIMA***,
SAYURI YANIWA***, JUNKO SAKANO**

** Graduate School of Health and Welfare Science, Okayama Prefectural University, 111 Kuboki, Soja-shi, Okayama, 719-1125, Japan.*

*** Department of Health and Welfare, Faculty of Health and Welfare Science, Okayama Prefectural University, 111 Kuboki, Soja-shi, Okayama, 719-1125, Japan.*

**** Department of Nursing, Faculty of Human Health Science, Niimi University, 1263-2 Nishigata niimi, Okayama, 718-8585, Japan.*

Keywords : community-dwelling elderly individuals, Social Provisions Scale, item response theory